

「PEACE DAY 2019」における 環境省 “つなげよう、支えよう森里川海” プロジェクト 開催レポート

1. 概要

PEACE DAY2019 は、「争いのない平和な世界を実現する」というビジョンを掲げ、2019年6月に設立された一般財団法人 PEACE DAY 主催による野外フェスです。「国際平和デー」である9月21日にフェスを行うことで、まずは「国際平和デー」を知ってもらい、すべてのひとが平和でつながる日を作っていくことを目指し、森里川海アンバサダーの四角大輔さんをはじめとした社会的に活躍するアーティストや経営者などが集結し、社会に向けてのメッセージの発信を目的としています。来場者は「平和」「旅」を切り口に、国際問題や社会問題への意識の高い20代30代の男女が参加する傾向があります。そのような世代の来場者向けに、地球規模でのサステナブルな循環・共生型の社会をどう築いていくことの理解、行動変容を促すために、トークステージやキャンペーンを実施しました。

トークステージでは「つなげよう 支えよう 森里川海プロジェクト」のアンバサダーでありシンガーソングライターの MINMI さん、女優の中島早貴さん、モデルの田中里奈さん、NOMA さんが登壇しました。



2. 目的

「持続的な地球環境」について、社会意識の高い20-30代若者世代に向けて、環境負荷のことを考えたライフスタイルや購買行動の考え方を提示するとともに、地球規模でのサステナブルな循環・共生型の社会をどう築いていくことの理解、行動変容を促すこと。

「わたしと地球にやさしい暮らしのヒント」の中から PEACE DAY 2019 にふさわしい“未来の重なり”を活用して、来場者の行動変容を SNS 投稿により可視化すること。

【実施概要】

- (1) 開催日時：2019年9月20日(土)10時~20時30分
 - (2) 開催場所：千葉県幕張海浜公園 Gブロック/野外特設会場
 - (3) イベント名：PEACE DAY 2019
 - (4) 参加者数：7091人
 - (5) 主催者：一般財団法人 PEACE DAY
 - (6) 参加費：有料
 - (7) 実施企画
- ◎トークステージ「持続可能な生産者と消費者のあり方」 presented by 環境省
登壇者：MINMI(シンガーソングライター)/中島早貴(女優)/田中里奈(モデル) / NOMA(モデル)
/中井徳太郎(環境省)
司会：小原壮太郎(一般社団法人 the Organic)
- ◎SNS 投稿を促すキャンペーン

3. トークステージ内容

【持続可能な生産者と消費者のあり方 presented by 環境省】

「森里川海プロジェクト」中井チーム長と、音楽やファッション、芸能界など各方面で活躍する著名人が登壇し、『持続可能な生産者と消費者のあり方』をテーマにディスカッションをしました。

冒頭に、中井チーム長から、千葉県で甚大な被害を引き起こした台風15号（令和元年9月9日）を例に挙げ、今現在の地球の起きている状況に対し、『地球のエコシステムが悲鳴をあげている』と警鐘。「地球の平均気温の上昇・異常気象などをヒトに例えると病気の発症例であり、私たちはその健康状態を改善する必要が求められている。それと同時に、ヒトのカラダは治癒能力（自ら元に戻ろうとするチカラ）があるように、自然にも力を戻すチカラがある。そのチカラに着目するのが大切。そのチカラが『森里川海』であり、その自然のチカラ・恩恵を、日々の営みの中で見直すのが大切。森里川海プロジェクトは、そのひとり一人の森里川海への意識を変え、企業や社会の意識を変える国民運動である」と話がありました。



現在アメリカ在住のMINMIさんや海外での仕事も多い田中里奈さんは、海外のオーガニックに対する考え方を話題にし、アメリカは大量生産・大量消費の側面がある一方、VegetarianやOrganicなどの手取りやすく選択肢も多いため、日本より身近なものであると発言していました。日本ではまだまだ嗜好品としての扱いが強く、それゆえ中々手に届かないものになっていて、米国移住後、商品の背景を意識するようになったそうです。



中島早貴さんはご実家が農業を営まれており、幼少期から自然や農業に触れ、その影響から『つくり手』の思いをファンに向けて発信する活動をされています。自身が企画するバスツアーではファンの方々と一緒に体験することを大事にしており、例えばマイボトルづくりやオーガニックドレッシングをつくって実際に食べてみるそうです。イベントで実際に体験することで、自分ごととして実感してもらえると発言していました。

NOMAさんは佐賀県出身で、東京を離れた今だからこそ自然の大切さを感じると発言。人間は本能的に自然を求めると設計されており、だからこそ旬の野菜が食べたくなくなったり土に触れたくなくなったりするのはと話していました。



MINMIさんは、有機農業で盛んな埼玉県小川町のことを取りあげて、美味しい野菜をつくるためには土の状態が良くないといけない。そのためには、川が綺麗であることや森が綺麗であることが不可欠。それを町のみんなで協力して守り創り上げていることに「全てが繋がっている」と感じたそうです。その一方で、生産者の方々の苦労やその町の景色を知らない中で、価格だけで商品を判断してしまう今の消費者の購買行動に疑問を感じ、そんな農家さんの苦労が報われるためには、私たち消費者が変わらないといけないと発言されました。

また、化粧品やサプリメントにお金を使うよりも、一番身近な食にお金をかけた方が健康に一番近いことをカラダで感じたとも発言。

そこで中井チーム長より、「自然をやっつけるのではなく、自然を味方にするのが大事。それがこれからのライフスタイルのあるべき姿。健康や美容そして食生活など自然に近いことを実践することで多くのことが改善できるはず。そのためにより多くの自然との接点を増やそう」と提案しました。

最後は、昨今『エシカル』や『SDGs』と言ったキーワードで盛り上げるファッション業界の話題へ。商品プロデュースやECサイトの企画など行っている『つくり手』側の視点で田中里奈さんが発言。ECサイトの企画のために韓国に行っていた際、市場に溢れる衣類を見て驚愕しといいます。「この衣類は何から作られて、誰の手に渡ってどんな風に使われるのだろう。売れ残った衣類はどうなるのだろう」と。これがキッカケで『自分が心地よいと思うもの』を選ぶように心がけているそうです。以前までは『好きなものを使う』が楽しかったけれど、今は『環境に配慮することで心地いい自分がある』と感じているそうです。

NOMAさんからは「ファッションの醍醐味は、楽しい雰囲気をつくること。それも大事であるし、今の時代はエシカルなファッションもデザイン性を大事にしている。」と発言。当日NOMAさんが着ていたワンピースは、ザクロの皮を染料に染めたもの。このような普段廃棄されるものがセカンドライフを迎えることはとても大切であり、ファッションやコスメの中でそのような循環が回れば良いと話していました。司会の小原さんからも、先日開催されたVogue Fashion's Nights Outを例に、世界的にも『サステナブル』がテーマになるようなパラダイムシフトが起きている現状を報告。

中井統括官は、「『サステナブルな社会』がキーワードとなっていく中で、大量生産大量消費の時代は終わり時代の潮目を今まさに迎える。そのような潮目の時代にこそ、日本人の勤勉さが世界の見本となる。災害の時いつも助け合いを通して乗り越えてきた日本人だからこそ、行動起こし地球が病気という現状に対してアクションを起こしてほしい。」と総括しました。

会場には20代30代男性女性が多く参加し、購買の際の商品の背景を知ることや意識することの大切さや持続的な社会に向けた取り組みについて深く知る機会となりました。



3. キャンペーン内容

『わたしと地球にやさしくらしのヒント』から、『未来の重なり』を発信する SNS キャンペーンを実施。『未来の重なり』とは、人によって見えている世界も、立っている立場も違うなかで、お互いが目指している未来について語り合い、重なりがある部分を見つけるというものです。本キャンペーンでは、SNS で『 #未来の重なり 』を載せて投稿した方の中から抽選で、四角大輔さんサイン入り著書と MINMI さんサイン入り公式グッズをプレゼントしました。

